



武蔵野赤十字病院

〒180-8610

東京都武蔵野市境南町1-26-1

TEL 0422-32-3111

発行 総務課 広報係



摂食・嚥下障害看護認定看護師

C-3病棟 江藤 美佳

「口から食べる」ということは健康、生命の維持だけでなく、生きる活力や楽しみ、そしてその人らしさを支えるものです。歳を重ねたり、病気になることで、口から食べるということが難しくなってしまう、中には栄養障害や肺炎など重篤な症状に陥ってしまう方もいらっしゃいます。しかし、患者さんの個々に合わせた調理方法や食べ方を工夫することで少しでも食べられるようになることもあるのです。「食」という字は「人を良くする」と書きます。実際に管から栄養を摂っていた患者さんが、食事が口から食べられるようになると、活気を取り戻していきます。

私は摂食・嚥下障害看護認定看護師として、「すべての人に口から食べるチャンス！」をモットーに、少しでも多くの患者さんが安全に、そしておいしく食べられるよう、お手伝いいたします。ぜひ、ご相談ください。

お詫び

2010年秋号No.26で「急性・重症患者看護専門看護師」とするところを誤って「急性・重症患者認定専門看護師」と掲載致しました。ここに訂正するとともにお詫び申し上げます。

インフォメーション

がん患者・家族交流会



場所：武蔵野赤十字病院 時間：午後2時～4時

開催日	テーマ	講師
1月19日	がん治療の予後と第2乳がん看護認定看護師	西巻 佳子
2月17日	がん化学療法について	血液腫瘍内科部長 中根 美

お問合せ先：がん相談支援センター 0422-32-3111 内線 7558
月～金 午前8時30分～午後5時



がんばってます



眼科外来看護師 松村桂子

訪問活動犬を御存知でしょうか。犬と飼い主が一体となって活動を行なう犬のことで、以前からアニマルセラピーに関わるボランティア活動をしたと思っていました。

私が所属しているNPO法人日本救助犬協会は、捜索救助活動と訪問活動を行なっています。定期的な訪問活動先は、7ヶ所の特別養護老人ホームです。チームに分かれて1ヶ月に1回1時間ほど活動をさせていただいています。

犬種はさまざまで大型犬から小型犬まで活動しています。みんな認定審査に合格した犬たちで、活動中は、ほえたり、排泄しないようにしつけられています。お年寄りが相手ですので訪問前は、シャンプー、爪切り、耳掃除、歯磨きを済ませて、活動に臨んでいます。

入所者さんたちは、車いすや職員の方に手をとられ集まって下さいます。犬をひざの上に乗せ撫でていただく、乏しかった表情が笑顔に変わります。

涙を流して喜んで下さると、私まで涙が出るほどうれしくなります。

犬と飼い主との活動ですので、犬の体調や飼い主さんの都合で、活動が出来なくなることもあります。他の施設からも、訪問活動に来て欲しいという要望をいただきますが、残念なことに、なかなか応えられる状況ではありません。訪問活動に興味のある方、愛犬と一緒に活動してみたいと思われましたら、是非日本救助犬協会のホームページを御覧戴きたいと思えます。



活動メンバーといっしょに!

日本救助犬協会

検索

アイ

Eyeむさしのは患者さま向けの情報誌です
ご自由にお持ちください



当院にいらっしゃる患者さんの抱える病状、生活の状況はさまざまです。少しでも安心して治療の継続や療養ができるように、相談をお伺いしております。医療連携課 ケースワーカー（社会福祉士） 大川 真央

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる



新年のごあいさつ

院長 富田博樹

あけましておめでとうございます。

西暦 2011 年の新年を迎えました。昨年、一昨年に世界をおそった経済の収縮と新型インフルエンザの猛威からの回復に世界中が全力を尽くした年でした。ハイチやパキスタンをおそった災害へ世界中が支援の手をさしのべましたが、その中心となったのが日本赤十字社です。日本赤十字社の近畿社長が世界赤十字連盟の会長に 2009 年に選出され、今や世界の赤十字の中心となって日本赤十字社は活躍しています。当院も日本赤十字社の一員として、秋には職員がパキスタンの洪水災害の現場へ派遣され、医療支援活動を行ってまいりました。

当院はこの地域の災害・救急・がん・小児・お産など広い分野で皆様を支える病院として、職員が一丸となって努めて参りました。当院のみでは皆様を支えることはできません。地域のさまざまな病院や医師会の先生方、そして介護・福祉を支える市との協力を得て初めて、皆様が安心して暮らせる地域を造ることができると。幸い、この地域の病院や医師会、市の行政はこの目的に一丸となって取り組んでおり、我が国でも先進的な地域と評価されています。それでも不足している機器・役割はまだあります。たとえばがんや脳卒中の入院後の治療には皆様のホームドクター（かかりつけ医）と当院に入院中に担当させて頂いた診療科の医師の二人が協力して退院後の診療に当たる二人主治医制度などが、皆様が安心して暮らせる地域となるために必要なことです。

これから高齢化がさらに進みます。ご高齢になればなるほど、それだけいくつかの病気を皆様は克服しなくてはなりません。入院しての治療も数度に及ぶことでしょう。その際、ホームドクターがあなたのホームグラウンドを守るようにして、大きな横に抱え支えてくださいます。これからの皆さんの健康は、ホームドクターと病院とが共同して守ってゆく時代となります。そして、家庭で必要になったら、しっかりと市が介護保険で守ってくれます。医師会の先生が往診して皆様の健康を守ってくれます。このような地域こそが、21 世紀の時代に必要で安心して暮らせる地域となるのです。当院は今年もこの目標に向かい、病院職員一丸となり、地域の病院、医師会の先生方、そして市とも協力して皆様の命と健康を守ってゆく所存です。今年が皆様にとり、幸多い年でありませうとお祈り申し上げます。



地域で途切れない医療の提供をめざして

副院長・看護部長 高橋高美

当院は地域の基幹病院として、最善の医療を安全に提供できますよう、多職種による協働の医療を推進し、救急医療・がん医療・母子医療と災害時には超急性期からチームを編成し救護活動を行っています。医療が機能分化し、患者さんの病状に応じた医療機関の利用が進んでおります。当院は病院間の入院・転院・在宅療養への移行が適切に行なえるよう、地域の医療施設の看護職員・ソーシャルワーカー・事務員や保健所の方々と「顔の見えるネットワーク作り」を始めて 9 年になります。この間様々な情報交換と研修を行ない、病院間で共通に使用できる情報用紙の作成と活用、地域医療マップの作成等に取り組んでまいりました。途切れない医療の提供に努めてまいります。

今後も皆様が、住み慣れた地域で健康回復へ向かうことが出来ませう、医療施設間の連携体制を整えてまいります。ご指導のほどお願い申し上げます。

診療科のご紹介

消化器科の取り組み

消化器科では、食道、胃、腸、肝臓、胆のう、膵臓など多くの臓器にわたる病気を診療しています。ひとりひとりの患者さんを大切に丁寧に診療し、最新の情報にもとづいて最適な治療を提供することを常に心がけています。また、診療結果を科学的に分析して、医療全体の発展に貢献することも、多くの患者さんを診療させていただいている我々の大切な役割だと考えています。



最近では、消化器科の取り組みのひとつとして「データマイニング解析」を診療に役立てています。「データマイニング解析」とは、人工知能を使って大量の情報を網羅的に解析することにより、有用な情報を得る技術です。企業のマーケティング調査などに使用されてきた分析技術ですが、消化器科では 2004 年から消化器病の分析に「データマイニング解析」を導入してきました。最初に分析したのは、C 型肝炎をインターフェロンで治療した場合に治癒しやすい患者さんを見分けるための方法でした。肝臓の脂肪化や血値値など、今までは関連がなと考えられていたことが治療の効果と関連することを発見しました。このような先駆的な取り組みが評価され、2008 年に泉並木副院長を代表者とする厚生労働省研究班「データマイニング手法を用いた効果的な C 型肝炎治療法に関する研究」研究班が充足し、全国の 7 大学・病院と共同して「データマイニング解析」を行っています。これまでの分析で、インターフェロン治療の効果を予測し最適な治療方法を選択するための方法、治療の副作用を予測し適切に対処するための方法、肝臓の病気が進行する危険性の高い患者さんを見分けるための方法など、肝臓病の診療に役立つ有用な情報を集め、取り組みが実を結びつつあります。また、肝臓病だけでなく胃の病気の分析も行い、成果を上げつつあります。

「データマイニング解析」は消化器科の取り組みの一例ですが、私たちはひとりひとりの患者さんを大切に診療すること、その診療の積み重ねを分析して、さらに多くの患者さんに役立つ情報を発見すること、そして広く情報発信することによって医療界全体で役立てていただくことを目標として、日々の診療に取り組んでいます。



全力を尽くします